

ZENBUTSU



念仏

No.
545

仏暦2551年12月
[2008年]



新年を迎え、町の中心から五体投地で聖山に向かう（インド） 撮影 田村 仁氏

目次

論点・視点 ①9 「メディアとの対話を」 岸本洋平
加盟団体をゆく 第21回 宮崎県仏教連合会
宗教教育推進委員会開催
全日本仏教婦人連盟第55回大会開催
京都府仏教連合会「仏教講演会」開催
浅草寺本堂落慶50周年記念大開帳
新法輪バッジ頒布のお知らせ

論点・視点

①9

メディアとの対話を

ジャーナリスト 岸本 洋平

行動力発揮のとき

米国発の金融危機が世界中に激震をもたらししている。わが国の場合、金融機関は係わり合いが少なく、一般企業は強い体力で免振力が働き、欧米ほどの震度ではないようだ。

この激震のなかで、中国は二〇〇八年十一月月上旬に総額五十七兆円もの国家資金投入を決めた。日本も金融機関が早々と米国証券会社に大型出資して窮地を救い、政府も事業規模二十七兆円の投入を表明して、世界経済の浮上めざして活発な動きを見せている。

震源地の米国では足元の危機対応で精一杯、欧州ではフランスが十二兆円の資金投入を公表したが、日中両国と比較すると、危機回復への貢献度はまだまだ低いと言えるだろう。

「百年に一度」ともいわれる今回の金融・経済危機。深みからの脱出

を図る中国、日本の行動は、その規模とスピードにおいてリード役を演じている。世界の政治、経済の分野

で、今後アジアの比重が急速に重みを増すことを予感させるシグナルでもある。

文化面でも、これに遅れをとってはならない。仏教界も「千年の伝統」を生かした行動力を、内外に向けて発揮する時代が到来したのではないだろうか。

「男の力は女の業」

今年十月中旬、私は身延山久遠寺にお参りをしてきた。東京の調停委員約三十人による研修旅行で富士山周辺に一泊、翌朝全員がバスで向かったのである。広くて整然とした境内を歩いていくうち、ある石碑が目にとまった。日蓮聖人または高弟による一文が刻み込まれている。文字を追っていくと「男の力は女の業」

とあるのが目にとまった。

現在、この言葉を否定する向きは皆無だろう。だが、権力と腕力のみが大手を振っていた時代にあつて、女性の力をここまで評価した人物が実際に存在したのだ。石碑を囲んだ委員たちは、あらためて仏教指導者の透徹した観察力に驚かされたのである。発言力の強い女性委員たちの意気がさらに高まり、帰りつくまで衰えなかったのはいうまでもない。

強調したい点がもう一つある。境内のトイレだ。最近不特定多数の市民が集まるトイレの水準が上がったのは知っているつもりだが、ここはそのレベルをはるかに超えている。トイレ内の細部にまで清潔感とサービス精神が行き届いており、都内の一流ホテルも顔負けと評している水準だった。

尼僧の言葉

私が日常生活のなかで仏教を意識させられたのは小学生二、三年生の頃である。大阪市内にあった自宅には、近くの尼寺「安養寺」の尼僧が一カ月に一回お参りにこられた。真言宗のお寺である。学校から帰宅し

た私は、このとき後ろに正座させられて、お経を聞かされていた。苦痛だったという思いが残っていないのは、案外お経の時間が短かったからかもしれない。

驚きは、お経が終わったあとの僅かなお茶の時間である。安養寺さんの口をつく言葉が静かで丁寧かつ滑らかなことであつた。楽器にたとえらると、上質なヴァイオリンから流れる正確でゆったりとしたメロディーとでもいおうか。子供心にも目を見張る思いだつた。小学校の先生や身の回りの大人たちとは、まるで異質の世界の住人のように思えたものだった。美しい日本語とはこのようなものか。いまだに忘れられない記憶の一つである。

仏教の力

二三年前のことである。友人たちと紅葉の京都御所や桂離宮、修学院離宮を訪れた。宿泊は花園・妙心寺の二カ所の宿坊、それぞれに一泊づつの小旅行である。

最初の宿坊は、残念ながら期待が裏切られた感があつた。世話係の視線が上から降りてくるようで気にな

ったことと、朝食に出された焼き海苔が一枚ずつ離れず、その束全体が一枚になっていた。些細なことかもしれない。しかし、その席に居合わせた全員が、不満顔でうなずき合ったことは事実である。

二泊目の宿坊では前日の宿坊の悪印象をすっかり拭い去ってくれた。宿泊者の数も前夜よりずっと多く、世話係の応対ぶりにもやさしい京女性の雰囲気がかめられていた。

妙心寺では非常に印象深いことがあった。朝食前、広大な敷地の清冽な空気を味わいたくて、深呼吸をしながら境内を歩いてみた。ある建物をのぞくと、男子高校生の一団が座禅を組んでいる光景に出くわした。彼らの表情にはわずかだが緊張感があった。独特の熱のこもった雰囲気を感じさせられた。

「そうだ。これが仏教の力かもしれない」——私は突然、このような感慨にうたれた。彼らにとってこの朝の座禅姿は、修学旅行かなにかで組まれた即興の姿であろう。とまどいながら両足を組み、目を閉じて、短い時間を過ごしているだけかもしれない。それでも瞑目して、立会い僧侶

の足音を感じながらのひとときに、きつと何かを思い、感じているはずだ。それが彼らの表情に出ていたのだ。私にはそんな思いが湧いてきたのである。

宿坊に戻って、そのことはそのまま朝食の間の話題にもなった。広い朝食の間では、客の着席を見届けてから出される味噌汁のほど良い熱さに、あらためて京の晩秋とサービスのぬくもりを感じさせられた。

伝統継承者の責務

前記のことがらは、門外漢が垣間見たときにこぼれてきた仏教の長所の切れ端であろう。「人の心を打つ遺訓」「美しい日本語」「心遣い」「その気にさせる力」だろうか。仏教世界の住人からすれば、日常的な他愛のない事柄かもしれない。

だが、世俗では言葉が乱れに乱れ、自分勝手は当たり前で、企業でもたんに結果だけを求める気風がまかり通っている。漫画好きの宰相が「頻繁」「踏襲」「未曾有」などの漢字を「はんざつ」「ふしゅう」「みぞうゆう」と読み違えて平然としている国だからやむをえない、というの

ではやりきれない。いまこそ仏教の出番ではないか。仏教、仏教人には人の心を動かす、さらに行動に導くなど大きくて強い引力があるのではないだろうか。

いま、自宅に仏壇を構えて、毎日家族がその扉を開く家庭はどれくらいあるだろうか。地域差は大きいだろうが、東京ではごく少数といえる。これはマスメディアの世界で動き回る記者たちの家庭でも同じこと。仏教に目を向ける一般ジャーナリズムは、きわめて少ないのが実情である。

だが、仏教の世界が東京のメディアアとの距離を現在のままにしておくことには、いささか疑問を感じる。いや、勿体ないというべきか。全国紙や通信社の強力な情報発信力、TVの持つ影響力を有効に使えば、仏教に対する一般市民の親近感、理解度は必ずや高まっていくに違いない。

メディアは何も仏教界を敬遠しているわけではない。だが、何か大きなきっかけがない限り、近づきはしない。連日、さまざまな角度から働きかけを受けながら、一般市民に不

可欠な情報の選別に追われているからである。日常的には仏教界からのアプローチによって、彼らの関心を高めること。これが重要な手順であろう。時間はかかるかもしれない。だが、いったん興味を持つと、とことん取材を広げて理解を深めていく。それがメディアの本能である。

記者たちに対して、自分たちの世界をもっと語ってみてはどうだろうか。自らの活動が社会に正しく伝わり、理解者や支持者層の拡大に努めることは、伝統的な存在の担い手にとって不可欠の歴史的責務である。リーダーが前面に立ってメディアに語り続けることは、その重要な要件のひとつだと確信している。

岸本洋平（きしもとようへい）氏
一九四二年生 ジャーナリスト
早稲田大学第一商学部卒
六十五年読売新聞大阪本社入社（社会部）
七十二年共同通信社入社、大阪社会部（司法）、経済部（財界）を経て、本社（東京）経済部。エネルギー、重工、大蔵省、財界など担当。事業本部次長、総合メディア本部次長などを歴任。

※次回は、十一月に開催致しましたWFB世界仏教徒会議日本大会の特集を掲載いたします。

加盟団体をゆく

《第二十一回》宮崎県仏教連合会

今回は、宮崎県仏教連合会 吉田海心会長（延岡市・本東寺住職）にお話を伺いました。本東寺の境内には樹齢二百年といわれている梅の木があり、慧日梅（えにちばい）と呼ばれ親しまれています。毎年二月の上旬頃には観梅会が開催され多くの参拝者が訪れ賑わっています。



吉田海心宮崎県仏教連合会会長

―仏教会の活動で、継続的に、また特に力を入れていらっしゃる点についてお聞かせ下さい。

宮崎県仏教連合会では、継続的に釈尊に関わる年間行事に力を入れております。特に降誕会・成道会・涅槃会等の法要がその中心です。

特別に行なっている法要といたしましては、現代社会では交通事故で多くの方々が亡くなることから、交通慰霊祭を定期的に行っております。

また、社会と仏教の接点を持つために、流れ灌頂の行事を行ったり、歳末助け合い運動を積極的に行っております。

他には、テレフォン説教や青年会の寺子屋等を通じ、青少年や悩める人々へのアプローチをはかっております。

―今後の仏教界の在り方について、指針をお聞かせ下さい。

仏教界で一番必要な事は、やはり「人との繋がりを持つこと」だ

と思えます。親子の繋がり、夫婦の繋がり、親との繋がり、地域・社会との繋がりをしっかり持って行くことが重要です。そのためには、まず仏教会の各宗派の僧侶たちが繋がることが第一歩ではないでしょうか。

法要を増やしたり、コミュニケーション・親睦を深める機会を増やし継続していくことです。

宮崎県仏教連合会を例にすれば、交通慰霊祭・流れ灌頂・テレフォン説教・挨拶運動等、社会に繋がりを発信できるような行事を行っていく。その両方が重要なのではないのでしょうか。

信仰とは「共に生き」「共に栄える」ということです。仏教会の未来のためにも 青年会を中心とした、青年僧侶・青少年の育成といった活動にも力を入れていくべきでしょう。

―昨今の様々な社会問題について、感じていらっしゃる思いをお聞かせ下さい。

昨今の世界情勢を鑑みます時、

誠に残念なことではありますが、必ずしも安穏と見過ごしていられる状況ではありません。

私たちは、つらい事は避けて好きな事だけをしたい。楽に快適に「生活」していきたいと願い、今まで近代文明を発展させてきました。

しかし、便利になった反面、温暖化や環境破壊等、地球が汚染され現在深刻な問題となつています。

また、環境だけではなく近代教育は親子の繋がり、夫婦の繋がり、会社との繋がり、地域・社会との繋がりをますます希薄にし「自分さえ良ければよい」という自己中心的な考えの中、格差社会の問題も深刻となつてしまつております。

まさに「物で栄えて心で滅ぶ」末法中の末法時代になりつつあります。

本来、お釈迦様は「天上天下唯我独尊」全ての生きとし生けるものは尊い存在である、とおっしゃられています。

しかし現実には、毎日のように目

を覆いたくなるような事件・事故が起きています。親が子を、子が親を殺害する価値観の麻痺した事件が相次いでおり、浄土とはほど遠い、地獄の相を呈しているのが現状です。

「生きとし生けるものすべてを仏と成し、あらゆる苦悩をとりのぞき、喜びと安らぎを与える」とは、み仏の誓いと願いであります。

マザーテレサ様が「愛」の反対語は「憎しみ」ではなく「無関心」だと言われました。まさに我々は宗教・宗派で対立している場合ではなく、まず「人生」に目を向けさせるところから始めなければいけません。

我々は、「生きた」人たちを相手に法を説いていかななくてはならないのです。

このような時勢である今だからこそ、宗教・宗派を超えて世界中の人々が繋がっていくため、世界平和のために祈りを一つにしていかなければならないでしょう。

―(財)全日本仏教会への「要望や

ご意見がありましたらお聞かせ下さい。

全日本仏教会そのものの活動内容や、会そのものの知名度を地域仏教会や一般の方々に積極的に広報してゆく事が、今後重要になっていくのではないかと、思います。(談)

全日本仏教会「賛助会員」入会者一覧

(十月十五日～十一月十四日)

【団体会員】

- 日本テンブルヴァン株式会社 有限会社 ルンビニ
- 全日本宗教学具協同組合 学校法人 真宗大谷学園
- 全日本葬祭業協同組合連合会 京都中央葬祭業協同組合

【個人会員】

- 天性寺 毛利俊行 (山形県)
 - 慈眼寺 櫻井英幸 (東京都)
- (順不同・敬称略)
- ご入会誠にありがとうございます。引き続き、更なる皆様のご入会をお待ちしております。

本会ホームページから賛助会員要綱・申込書などを閲覧・プリントアウトできます。
<http://www.jbline.jp>

第三回 宗教教育推進委員会開催

十月十六日、本会会議室において、第三回宗教教育推進委員会が開催された。

今回の委員会は主に勉強会として開催され、文部科学省初等中等教育局教育課程課学校教育官の森友氏より、小・中学校学習指導要領「道徳教育」改訂のポイントについて説明があった。

道徳教育の目標として、伝統・文化・宗教等の継承・発展、公共の精神を新たに規定したこと、道徳教育推進教師(道徳教育の推進を主に担当する教師)を中心に、全教師が協力して道徳教育を展開することを明確化する、等が説明された。

また、委員より、諸外国の宗教教育の実態について、世界の宗教教育を具体的に示したDVD「世界の宗教教科書」(大正大学出版会発行)を使用しての説明がなされた。

他の議題としては今後の委員会の運営について協議され、閉会となった。

財団創立五十周年記念事業 特別協賛金寄付者名

(十月十五日～十一月六日)

- 本妙寺 柏酒孝鏡
- 権寺 日比野郁皓
- 大本山 成田山新勝寺
- 大本山 光明寺 宮林昭彦
- 大本山 高尾山薬王寺

【合計 六五〇,〇〇〇円】 (順不同・敬称略)

ご支援ありがとうございます。更なる皆様のご支援ご協力をお待ち申し上げます。

【郵便振替】

口座番号 0013016137600

口座名義 財団法人全日本仏教会

【銀行振込】

三井住友銀行 浜松町支店

口座番号 普通 7082913

口座名義 財団法人全日本仏教会

「救援基金」寄付者名

(十月十五日～十一月十三日)

- 北条仏教会
- 天性寺 毛利俊行
- 顕本法華宗

(順不同・敬称略)
ご支援誠にありがとうございます。仏教界挙げての人道的活動のため、ひきつづきご協賛をよろしくお願い申し上げます。

【郵便振替】

口座番号 00110191704834

口座名義 全日本仏教会救援基金

【銀行振込】

中央三井信託銀行 本店営業部

口座番号 09730031

口座名義 財団法人全日本仏教会

京都府仏教連合会主催 「仏教講演会」開催

十一月三日、大本山妙心寺「微妙殿」にて、京都府仏教連合会主催「仏教講演会」が開催された。

講師の水谷修氏は、「いま、子どもたちは……」私たちにできること、しなければならぬこと」の講題にて講演を行った。

水谷氏は、「子どもは生まれてすぐに「悪いことをしてやろうとか、薬物に手をつけよう」などとは思ってはいない。大人が安らげる場所を奪ったため、薬物・シンナー・自殺・いじめ・リストカット等に逃げ場を求めたのである。苦しんでいる子どもたちに安らげる場所を与える責任が我々大人にはある。」と熱く語った。

本来子どもたちが安堵できる場所であるはずの、家庭や学校はその機能を果たしていない。その対策として、水谷氏は寺院や僧侶の方々に協力を求め、「お寺を開放しよう。」と、あらゆる宗派や寺院に呼びかけ、全国で数百の寺

院が動き出し子どもたちに門戸を開き始めており、もともと増えることを望みます。

と、講演の中で訴えた。会場には約二百名以上の来場者が詰めかけた。



講演する水谷修氏

全日本仏教婦人連盟 第五十五回大会開催

十月三十日、グランドプリンスホテル高輪にて、全日本仏教婦人連盟第五十五回大会が開催され、本会から深澤信善事務総長が出席した。

第一部では、善光寺法主の鷹司誓玉名誉会長を導師として、全日本仏教尼僧法団を式衆に法要を厳修。法要終了後、鷹司法主の垂示では、現在の社会不安に触れながら、「私たち個人として今すぐできる事はお互いの仏性を拝みあう合掌の日暮らし」と仏教者の姿を示した。大谷貴代子全日本仏教婦人連盟会長が続いて挨拶。「今の私たちには他への労りや協調性、我慢、忍耐をするということも薄らいでいる」と指摘し、仏教婦人としての労りや慈しみの実践の必要性を説かれた。

来賓の挨拶に続いて、全日本仏教婦人連盟の「写経運動」で集まった写経千五百巻の目録が(財)国際仏教交流協会の正本乗光事務総長に贈られた。写経一卷につき千円が奉納され、浄財は印度山日本寺の光明施療院の医療診断(無料)の運営資金に充てられる。

第二部では、和やかな雰囲気の中約百六十名が参集し、懇親会が開催された。

新花まつりポスター 制作のお知らせ

本会にて頒布しております「花まつり」ポスターを、来年度より刷新致します。

新しい図柄は現在制作中で、来年一月末完成を目指しております。

完成次第、本会ホームページ上に告知と販売を行います。また、三月号の『全仏』誌にも、図柄及び申込方法を掲載します。

なお、現在販売中の「花まつり」ポスターも在庫分に関しては販売を続けさせていただきます。

おててのしわとしわをあわせて…しあわせ <http://www.kuyou.com/>

美と技を極めたお浄土の世界
はせがわ銀座本店

HASEGAWA MUSEUM

東京都中央区銀座1-7-6 銀座河合ビル1・2・6階
営業時間 11:00~19:00 不定休
0120-58-7676 (なむなむ)

お仏壇のはせがわ

事務総局録事

十月(十一～三十一日)

十四日▼WFB大会の警備会社と打合せ

十五日▼WFB大会部会

▼国際交流審議会

十六日▼局内会議

▼宗教教育推進委員会

▼仏教伝道協会来局

▼全日本仏教青年会と打合せ

(於 別院真福寺)

十七日▼ICS・JTB打合せ

二十日▼社本会計事務所訪問

二十一日▼大和証券本社訪問

▼日本テンプルヴァン訪問

▼シンポジウム映画・字幕作成者 鎌田氏来局

二十二日▼全日本葬祭業協同組合連合会大阪大会出席

▼第四回コーディネーター会議

▼仏教英語プログラム

▼無料法律相談室

▼局内会議

▼日本宗教連盟参議 栗田

行雄氏告別式参列

二十五日▼仏教と環境の危機シンポジウム出席(於 武蔵野

※本会事務総局の休業について

十二月二十二日(月)WFB大会の振替休日

十二月二十七日(土)～一月六日(火)年末年始休日

十二月二十七日(土)～一月六日(火)年末年始休日

十二月二十七日(土)～一月六日(火)年末年始休日

十二月二十七日(土)～一月六日(火)年末年始休日

十二月二十七日(土)～一月六日(火)年末年始休日

大学)

▼黄檗宗管長晋山式出席

(於 萬福寺)

二十七日▼ICS・JTB打合せ

二十八日▼上野・浅草神仏具専門店

会訪問

三十日▼第五十五回全日本仏教婦人

連盟大会出席(於 グラン

ドプリンスホテル高輪)

▼局内会議

三十一日▼浅草寺本堂落慶五十周年記念開帳法要・祝賀会

出席(於 浅草寺)

十一月(一～十日)

三日▼京都府仏教連合会「仏教講演

会」出席(於 大本山妙心寺)

四日▼大本山増上寺法主成田有恒台

下表葬儀参列(於 増上寺)

▼浄土宗 稲岡宗務総長を訪問

▼ICS・JTB打合せ

五日▼WFB大会部会委員と打合せ

▼仏教英語プログラム 日本大

会ボランティア打合せ

六日▼民主党 本部職員来局

十日▼局内会議

▼ICS打合せ

祈りの世界⑧ インド

チベット文化圏の最西端に位置するラダックはインド領に属している。しかし、中印の国境問題はいまだ未解決で国境線は停戦ラインが引かれたままである。ラダック地域はインド領であったが故にチベット動乱や文化大革命から逃れ、チベット文化が原色のまま生き続けチベット文化の宝庫と言われている。各村の高台には必ず僧院があり、寺院内には私たちに馴染み深い仏像や諸尊等が壁画いっばいに埋めつくされている。人々は四千米トル近い高地に住み仏教を生きる糧とし、精神的生活を最も大事にしながら懸命に生きている。

(文章及び写真 田村 仁氏)



インド(ラダック)フィヤン寺の四臂観音像

集英社の翻訳単行本

〒101-8050東京都千代田区一ツ橋2-5-10 www.shueisha.co.jp ※定価は税込みです

青蔵鉄道開通はチベット二度目の侵略の完了であり、文化の虐殺の始まりである。

ダライラマ十四世



《好評発売中》

四六判ハードカバー・320頁 定価2520円(本体2400円) ISBN978-4-08-773466-9

青蔵鉄道建設に隠された衝撃の事実、中国の恐るべき狙いに迫った渾身のノンフィクション。

チベット 侵略鉄道

中国の野望とチベットの悲劇 アブラム・ラストガートン(著)戸田裕之(訳)

無料法律相談室

長谷川正浩顧問弁護士による、無料法律相談を毎月第二、第四木曜日の午後開催しております。本会事務総局03(3437)9275へ事前予約の上、お来し下さい。

浅草寺本堂落慶50周年記念大開帳開催される

浅草寺本堂は昭和20年の東京大空襲による戦災で焼失した。その後、昭和33年に現在の本堂が再建され、今年で再建50周年を迎える。再建50周年を記念し、33日間に渡り各種法要・行事が催されている。中日にあたる10月31日、御中日法要が催され、本会から豊原大成理事長が出席した。

当日は総勢100名を超える参列者で賑わう中、稚児行列によるお練りが行われ、その後本堂にて法要。法要は、聖観音宗の縁故宗派である天台宗の半田孝淳天台座主を導師に、菅原榮光日光輪王寺門主、神田秀順東叡山輪王寺門跡（寛永寺住職）を副導師に招き、他多数の僧侶が参集し、三山合同での法要が営まれた。

大開帳の最終日となる11月16日の午前11時には全日本仏教会主催の「世界平和法要」が執行された。法要の前には、世界仏教徒会議参加の各国僧侶が参列してのお練りが行われ、各国仏教徒の代表が平和を祈念しての祈りを捧げた。



来賓各位も多数詰めかけた
(写真 田村仁撮影)



稚児行列によるお練り

新法輪バッジ頒布のお知らせ

本会で頒布しております「法輪バッジ」がタイタック式になり、より取り付け易くなりました。(プラスチックケース入り)



頒布価格 1個 1,000円

ご購入ご希望の方は、本会ホームページから申込書をダウンロードして頂くか、FAXまたはハガキに下記必要事項を明記の上、お申込みください。

- 希望商品名、数量
- ご寺院名、宗派名（一般の方は不要です）
- 郵便番号、住所、氏名、電話番号



〒105-0011 東京都港区芝公園4-7-4 明照会館 2階
全日本仏教会財務部 FAX:03-3437-3260